

## 問題 I

以下の文章の空欄 (1) (2) から (17) (18) に入る最も適切な語句を語群より選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、本文中の下線部 (ア) から (ウ) に関する設問に答えなさい。なお、引用した史料の原文は適宜改めてある。

歴史学者の呉座勇一は、中世こそが一揆の黄金時代であり、その本質は人々の横断的な結合にあると指摘している。人々はなぜ連帯し、何に立ち向かったのだろうか。

まず、室町幕府期に大きく変化した守護制度が挙げられるだろう。鎌倉幕府以来の (1) (2) に加えてさまざまな権限を得た守護たちは、荘園や公領の領主から年貢の取り立ても請け負うなど影響力を強めていき、なかには一国全体に及ぶ支配権を確立するものも現れた。これに対抗するため、地方に土着した地頭などの中小武士である (3) (4) は相互に地域的な連合を結び、紛争解決や地域防衛を行いつつ農民を服従させようとした。一方、農民たちも自治組織を形成し、自ら定めた掟に基づいて秩序を維持しようとした。鎌倉時代後期に畿内から発生したこのような村の形態を惣村という。惣村の農民たちは、掟に違反した者に罰を下すなど、(5) (6) と呼ばれる警察権を行使して守護による干渉を拒否し、領主に納める税に対しても村が連帯して責任を負うなどの組織化を進める一方で、強訴や逃散などの実力行使を含め、強い横断的結合によって守護や領主の権力に対抗した。

室町時代後期になると、このような連帯は都市の住民や困窮した武士を含めた暴動へと発展し、京へと押しかけて (7) (8) , 土倉、寺院といった金融業者を襲撃し、債務の破棄や質物の取り戻しを自力で実現するようになった。『大乘院日記目録』ではそのありさまが「正長元年九月、一天下の土民蜂起す。(中略) 雑物等恣にこれを取り、借錢等悉これを破る。<sup>(ア)</sup>管領これを成敗す。凡そ亡国の基、これに過ぐべからず」と描写されている。応仁の乱以降には、争いを繰り返す守護勢力から地域の秩序を守るため、(3) (4) に加え地域住民を広く組織した (9) (10) が発生するようになった。1485年、東西両派に分かれて争っていた畠山氏の勢力を (9) (10) が国外に退去させた様子は、『大乘院寺社雑事記』に「今日山城 (3) (4) , 平等院に会合す。国中の掟法なお以てこれを定むべしと云々」と記録されている。また1488年に守護の富樫氏を制圧した (11) (12) は、約1世紀にわたって実質的な領国支配を続けた。

これらの一揆で構成員の平等性・対等性が強調されたことは、<sup>(イ)</sup>傘連判状を用いた盟約や多数決による意思決定に現れている。一揆の結束を固めるため、神仏の姿を刷った紙の裏に偽りを述べれば罰を受ける旨の誓約とともに署名した (13) (14) を焼いて水に溶かし皆で飲む一味神水など神仏の権威が利用されたことは、<sup>(ウ)</sup>前近代の紛争解決方法の一環として理解することができる。守護勢力を基礎に発展した戦国時代の大名たちは、一揆などの横断的結合を警戒し、自力での紛争解決を禁止することで秩序維持の権限を握ろうとしたのである。

江戸時代に入ると、村政に参加する資格は検地帳に記載された (15) (16) と呼ばれる一部の男性戸主に限られ、田畑を持たない水呑や (15) (16) に隷属した名子・被官などはそこから排除されていた。幕府が農民の経営を安定させるために出した江戸時代初期のさまざまな法令、たとえば田畑永代売買の禁止令や (17) (18) も、その一環として理解することができる。江戸幕府は、村の運営や納税については農民の自治に依存しつつ、村落内部の身分秩序を固定化することによって横断的な結合を抑制しようとしたのである。

〔設問 1〕

下線部（ア）の「管領」に関する説明として適切でないものを選び、その番号を解答欄 (19) (20) にマークしなさい。

- [01] 「三管領」と呼ばれる細川・斯波・畠山氏から交替で就任した。
- [02] 武士を統率し、京都の警備や刑事訴訟も扱う職であった。
- [03] 管領家の後継問題が一因となって応仁の乱が勃発した。
- [04] 応仁の乱以後、特定の管領家が将軍を廃するなど幕府の実権を掌握した。
- [05] 鎌倉公方を補佐する執事は関東管領と称された。

〔設問 2〕

下線部（イ）の「傘連判状」に関連する記述として適切でないものを選び、その番号を解答欄 (21) (22) にマークしなさい。

- [01] 首謀者が重い罰を受けることを避けるため、判別できないようにした。
- [02] 始まりと終わりをなくすことによって一揆が展開した経緯を隠そうとした。
- [03] 上から見た傘のように、円を中心として放射状に参加者が署名した。
- [04] 署名の形態から、車連判状・藁座廻状とも呼ばれる。
- [05] 平等な団結を示すために用いられた、中世の一揆に特有の形式である。

〔設問 3〕

下線部（ウ）の「前近代の紛争解決方法」に関連する記述として適切でないものを選び、その番号を解答欄 (23) (24) にマークしなさい。

- [01] 熱湯に手を入れ、火傷の有無によって主張の成否を決める判断方法を「くかたち」と呼ぶ。
- [02] 僧兵たちは春日大社の神木を京に運び入れることで朝廷に主張を受け入れさせようとした。
- [03] 足利義持が後継者を定めずに死去したため、その後継者はくじ引きで神意を尋ねて決定された。
- [04] 紛争の両当事者が神前で決闘し、その勝敗によって裁判の結果を決めることを「相対済」という。
- [05] 江戸時代、正規の順序を乱して訴えることは越訴と呼ばれ、禁止されていた。

〔語群〕

- |           |           |           |             |           |
|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 01. 一円知行  | 02. 一向一揆  | 03. 刀狩令   | 04. 株仲間     | 05. 刈田狼藉  |
| 06. 起請文   | 07. 給人    | 08. 旧里帰農令 | 09. 国一揆     | 10. 国侍    |
| 11. 蔵元    | 12. 郡内騒動  | 13. 血税一揆  | 14. 解由状     | 15. 貢士    |
| 16. 国人    | 17. 国訴    | 18. 米騒動   | 19. 壘田永年私財法 | 20. 酒屋    |
| 21. 沙汰人   | 22. 座頭    | 23. 地下検断  | 24. 地侍      | 25. 使節遵行  |
| 26. 私徳政   | 27. 地主    | 28. 霜月騒動  | 29. 朱印状     | 30. 莊園整理令 |
| 31. 自力救済  | 32. 新恩給与  | 33. 出挙    | 34. 惣掟      | 35. 惣領    |
| 36. 大犯三カ条 | 37. 治外法権  | 38. 土一揆   | 39. 祝詞      | 40. 暇状    |
| 41. 百姓一揆  | 42. 武家諸法度 | 43. 札差    | 44. 分地制限令   | 45. 法華一揆  |
| 46. 本百姓   | 47. 本両替   | 48. 万雑公事  | 49. 村方騒動    | 50. 結     |
| 51. 浪人    | 52. 和与中分  |           |             |           |

## 問題 II

以下の文章と、下線部（ア）から（ウ）に関する文章の空欄 (25) (26) から (47) (48) に入る最も適切な語句を語群より選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

西洋のチェスと比べ、日本で古くから愛好されてきた囲碁や将棋は、より複雑な盤上ゲームとして知られている。そのため、昨年、人工知能と世界トップクラスの囲碁棋士との対決で人工知能が勝利をおさめたことは、衝撃的な事件として世界中で報じられた。

日本に囲碁が伝来した経緯については諸説あり、定説は存在しない。しかし、(25) (26) の没後、その皇后であった人物により東大寺に献納されたという御物の中に、碁盤（木画紫檀碁局）が収蔵されていることから、遅くとも8世紀中頃には伝えられていたと考えられる。古くから信じられてきた説は、(ア) 717年に使節として中国に渡った (27) (28) が、帰国の際に日本に囲碁を伝えたというものである。現在では、それ以前に既に伝わっていたという見解も有力だが、(27) (28) が中国から多数の典籍を持ち帰り、当時の最新の兵法などの学問を日本に伝えた学者であること、また、後に右大臣にのぼるなど政治的にも大きな力を持った人物であったことから、上述の説が伝説化したのであろう。(27) (28) が中国に渡った際の説話を描いた12世紀後半の絵巻の中にも、囲碁勝負にまつわる説話が描かれている。

囲碁が貴族の間で広くたしなまれていたことは、(イ) 一条天皇の内裏に仕えた女房が書いた長編物語の中に、囲碁にかかわる場面がみられることからわかる。時代が下るにつれて、囲碁は、武士や僧侶、町衆の間でも広まった。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった戦国武将も囲碁を愛好していたといわれており、当時の囲碁の名手の中には扶持を与えられる者も現れた。豊臣政権下の五奉行の1人に数えられ、1600年の合戦では東軍に属したことで知られる (29) (30) は、徳川家康の囲碁の好敵手であったといわれている。

江戸時代には、将軍の御前で行われる御城碁の運営や囲碁界の統括などの職務を行う碁所が設けられた。初代の碁所は、はじめは将棋所も兼務していたが、将棋所の地位は、その後、将棋を専門とする者に譲られた。碁所および将棋所は、(ウ) (31) (32) の管轄下に置かれた。碁所の地位をめぐることは、囲碁家元4家（本因坊家、安井家、井上家、林家）の間で激しい勝負が繰り返された。江戸時代の高名な囲碁棋士の1人であった (33) (34) は、日本における暦学の創始者としても有名である。(33) (34) は、平安時代より使用されていた唐由来の (35) (36) 暦の誤りを修正し、はじめての国産の暦を編修した。

明治期以降の政治家や文人の中にも、囲碁にかかわる逸話を持つ者が多くみられる。たとえば、後に内務卿として明治政府の中心人物となる (37) (38) は、ある藩の下級藩士だったころ、勤王思想に基づく改革を求める訴えを、当時の同藩の事実上の最高権力者であった (39) (40) に伝達する機会を得るために、囲碁を利用したといわれている。(39) (40) は、藩を挙げて勤王の立場をとることとし、1862年には藩兵とともに上洛し、勅使・大原重徳を擁して江戸に下り、幕政改革を求める行動に出た。その結果、参勤交代制の緩和や西洋式軍制の採用などの改革が行われた。

大正期から雑誌記者として日本の対外膨張主義を批判する多数の論稿を著し、第2次世界大戦後は政治家として活躍し、内閣総理大臣も務めた (41) (42) は、人間の天分に関する随想の中で囲碁について触れている。その中で、鳩山一郎が母親の方針で若いころに囲碁を学び、アマチュアの高段者になったというエピソードを紹介している。

文人では、太宰治らとともに無頼派と呼ばれる作家として活躍し、「白痴」などの作品を書いた (43) (44) が愛好家として有名である。(43) (44) は、戦争の影響で解散を余儀なくされた文人同士の囲碁サークルを振り返る文章の中で、「僕は物にタンデキする性分だが碁のタンデキは（中略）深刻で、碁と手を切るのに甚大な苦勞をしたものだ」と述べるほど囲碁好きであった。(43) (44) は将棋の愛好家でもあり、囲碁および将棋に関するいくつもの随筆や観戦記を遺している。

[設問]

- (ア) このときに中国に渡った使節の中には、様々な事情から、帰国を果たせなかった者もいる。たとえば、(45) (46) は、帰国船が海難に遭ったことから帰国を断念し、中国に留まった。(45) (46) の作である望郷の歌は、醍醐天皇の勅により編纂された和歌集におさめられている。
- (イ) この作品は男女の色恋沙汰を主題とするものであったことから、特に武家社会の時代になってからは、漢学や儒学の立場から、作品の性格が好色的だとする批判もなされた。これに対し、医者であり国学者でもあった(47) (48) は、この作品に関する注釈書を著し、「もののあはれ」という考え方からこの作品の文学的価値を高く評価した。
- (ウ) (31) (32) の職務の範囲は広く、その主たる職務に加え、楽人、連歌師、陰陽師、碁所、将棋所といった遊芸にかかわる者たちの管理や、遠方の諸国私領の訴訟処理なども担当した。(31) (32) は、1635年に創設され、将軍直属の役職にもなり、原則として譜代大名の中から任命された。

[語群]

- |           |           |          |           |           |
|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 01. 浅野長政  | 02. 芦田均   | 03. 安部公房 | 04. 阿倍仲麻呂 | 05. 石川淳   |
| 06. 石橋湛山  | 07. 犬上御田鍬 | 08. 井上円了 | 09. 井伏鱒二  | 10. 大久保利通 |
| 11. 大伴旅人  | 12. 大橋宗桂  | 13. 大目付  | 14. 荷田春満  | 15. 片山哲   |
| 16. 賀茂真淵  | 17. 川端康成  | 18. 勘定奉行 | 19. 寛政    | 20. 岸信介   |
| 21. 北村季吟  | 22. 木戸孝允  | 23. 吉備真備 | 24. 久世広周  | 25. 元正天皇  |
| 26. 玄昉    | 27. 元明天皇  | 28. 光仁天皇 | 29. 小西行長  | 30. 小早川秀秋 |
| 31. 西郷隆盛  | 32. 坂口安吾  | 33. 寺社奉行 | 34. 島津斉彬  | 35. 島津久光  |
| 36. 授時    | 37. 貞享    | 38. 聖武天皇 | 39. 菅原道真  | 40. 井真成   |
| 41. 宣明    | 42. 高杉晋作  | 43. 橘諸兄  | 44. 天保    | 45. 永井荷風  |
| 46. 中岡慎太郎 | 47. 野間宏   | 48. 塙保己一 | 49. 林春斎   | 50. 評定衆   |
| 51. 藤原清河  | 52. 藤原仲麻呂 | 53. 藤原広嗣 | 54. 宝暦    | 55. 本因坊算砂 |
| 56. 前田利家  | 57. 増田長盛  | 58. 町奉行  | 59. 松平容保  | 60. 松平慶永  |
| 61. 三木武夫  | 62. 本居宣長  | 63. 文武天皇 | 64. 安井算哲  | 65. 吉田茂   |

### 問題Ⅲ

以下の史料と設問、及び下線部（ア）から（ウ）に関する文章の空欄 (49) (50) から (73) (74) に入る最も適切な語句を語群から選び、その番号を解答用紙の所定欄にマークしなさい。なお、A・B・C にはそれぞれ共通の語が入る。また、引用した史料の原文は適宜改めた。

#### 〔史料1〕

寛政四五のころより紅毛の書を集む。蛮国は理にくはし。天文地理又は兵器あるは内外科の治療、ことに益も少なからず。されどもあるは好奇の媒となり、またはあしき事などいひ出す。さらば禁ずべしとすれど、禁ずれば猶やむべからず。況やまた益もあり。さらばその書籍など、心なきものゝ手には多く渡り侍らぬやうにはすべきなり。上庫にをき侍るものしかるべし。されどよむものもなければ只虫のすと成るべし。わがかたへかひをけば世にもちらず、御用あるときも忽ち弁ずべしと、長崎奉行へ談じて、舶来の蛮書かひ侍ることゝは成りにけり。

#### 〔設問1〕

蘭学は、江戸時代に西洋知識を輸入する上で重要な役割を果たし、医学・数学・兵学・天文学などに及んだ。18世紀はじめ、(49) (50) がイタリア人宣教師シドッチを尋問して得た情報をもとに『西洋紀聞』『采覧異言』を著したことが、蘭学研究への関心のきっかけとなった。その後、漢訳洋書の輸入制限が緩和された時代に、青木崑陽や(51) (52) らがオランダ語を学んだ。

言論統制の強化を目指した(53) (54) は、当時示した蘭学に対する幕府の方針を〔史料1〕で振り返っている。自然科学の分野では、長崎で(55) (56) を務めたことのある志筑忠雄が『暦象新書』を著して、ニュートンの万有引力説などを日本に紹介した。その頃、A は、江戸で塾を開いて蘭学を教え、太陽暦の正月を祝う新元会を催した。ドイツ人のB は、塾を開いて医療と西洋学問を教えた。その一方で、<sup>(ア)</sup>B は日本に関する情報収集に努め、『日本』『日本動物誌』『日本植物誌』などを著して西洋の日本研究を一新したことで知られており、現在その資料の一部がライデン大学に所蔵されている。

(ア) B は幕府天文方・書物奉行の(57) (58) と会い、伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」などを贈られたが、帰国の直前にこれが発覚し、資料没収の上、国外退去となった。

#### 〔史料2〕

(59) (60) の原稿は素より(61) (62) (が) 一本を秘蔵せしに、安政二年江戸大地震の火災に焼失して、医友又門下生の中にも曾て之を謄写せし者なく、千載の遺憾として唯不幸を嘆ずるのみなりしが、旧幕府の末年に神田孝平氏が府下本郷通を散歩の折節、偶ま聖堂裏の露店に最と古びたる写本のあるを認め、手に取りて見れば紛れもなき(59) (60) にして（中略）書中の紀事は字々皆辛苦、就中明和八年三月五日<sup>(イ)</sup>蘭化先生の宅にて始めてターフルアナトミアの書に打向ひ、艱難なき船の大海に乗出せしが如く茫洋として寄る可きなく唯あきれにあきれて居たる迄なり云々以下の一段に至りては、我々は之を読む毎に、先人の苦心を察し、其剛勇に驚き、其誠意誠心に感じ、感極りて泣かざるはなし。

〔設問 2〕

A の師である (61) (62) は、『ターヘル＝アナトミア』を漢訳した際の経緯、苦心談を『(59) (60)』で回想している。(61) (62) は、江戸を訪れた (55) (56) に外科の技術について質問し、蘭書の入手に励むなど新たな情報の収集に努めていたが、小塚原刑場で屍体の解剖を観察し、携帯していた『ターヘル＝アナトミア』の図が実物と符合していることに驚嘆して、同志と翻訳することを決意したという。その漢訳版の扉絵・解剖図を描いたのが洋画家の (63) (64) で、平賀源内から西洋画法について刺激を受けて漢画の技法に陰影法や遠近法を取り入れ、蘭学者とも交流があった。代表作に「不忍池図」がある。

『(59) (60)』は江戸時代に草稿が著されたがその後散逸し、明治になって刊行されたが、その再版の際の序文である〔史料 2〕は、幾度も西洋に渡航した経験を活かしてその事情を日本に伝えた (65) (66) が執筆したものである。彼は熱心に蘭学に励んだ様子について、自伝のなかで、次のように描写している。すなわち、「ゾーフ」というオランダ語の貴重な辞書が一冊しか塾にないため、会読の授業の前には皆が徹夜して「ゾーフ部屋」に引き籠もり、「無言で字引を引きつゝ勉強して居る」といった様子であった。こうした苦学の経験があったためであろうか、〔史料 2〕を記した当時、(65) (66) は知人宛の手紙で「之を認めながら、独り自から感二堪へず。涙を揮ひ執筆」したと述べている。

(イ) 「蘭化先生」は、青木崑陽からオランダ語を学び、長崎に留学し、(65) (66) の出身藩でもあった (67) (68) 邸内の宿所で (61) (62) らと『ターヘル＝アナトミア』の会読を行った。

〔史料 3〕

今天下五大洲中、<sup>アメリカ</sup>亜墨利加、<sup>アフリカ</sup>亜弗利加、<sup>アウストラリア</sup>亜烏斯谷羅利三州ハ已ニ欧羅巴諸国の有と成。亜爾亜一洲といへども、僅に我国、<sup>トウザン</sup>唐山〔中国〕、<sup>ベルシア</sup>百爾西亞の三国のミ。其三国の中、西人之通信せざるもの、唯我邦存するのミ。万々恐多き事なれば、実に杞憂に不堪。論ずべきハ、西人より一視せば、我邦ハ進上遺肉の如く餓虎渴狼の不顧を得んや。

〔設問 3〕

江戸時代後期になり、<sup>(ウ)</sup>外国船が到来するなど西洋列強の脅威が迫るようになると、蘭学者もそれに対応せざるを得なくなる。イギリス（実際にはアメリカ）のモリソン号が渡来する予定であり、打払いをもってこれに対応すべしとする評定所の答申案を幕府の既定方針であると認識した C は、それを諫める書を著した。一方、(69) (70) らに絵を学び、佐藤一斎などから儒学を学んだ (71) (72) は、この認識を受けて、〔史料 3〕のように述べ、外敵に対する防備の必要性を訴えようとした。幕府側は、外国の学問を盲信したり、無人島に渡航を企てたなどとして (71) (72) を告発し、三河田原藩の家老という上士の身分であったため、蟄居に処した。一方、C は町人であったため永牢に処せられ、のち脱獄したものの、捕吏に襲われて自害した。

(ウ) 1840年から1842年まで、イギリスと中国との間でアヘン戦争が勃発し、幕府の海防政策にも影響が及んだ。江戸幕府は外交問題に対処するために海防掛という役職を常置したが、(73) (74) の設置によって廃止された。

[語群]

- |            |            |           |           |
|------------|------------|-----------|-----------|
| 01. 亜欧堂田善  | 02. 赤蝦夷風説考 | 03. 新井白石  | 04. 池大雅   |
| 05. 石田梅岩   | 06. 稲村三伯   | 07. 歌川国芳  | 08. 宇田川玄随 |
| 09. 梅田雲浜   | 10. 江馬細香   | 11. 大村益次郎 | 12. 緒方洪庵  |
| 13. 荻生徂徠   | 14. 荻原重秀   | 15. 小田野直武 | 16. 小浜藩   |
| 17. オランダ通詞 | 18. 尾張藩    | 19. 海軍操練所 | 20. 海軍伝習所 |
| 21. 外国官    | 22. 外国人教師  | 23. 外国人判事 | 24. 外国奉行  |
| 25. 華夷通商考  | 26. 外務省    | 27. 紀州藩   | 28. 工藤平助  |
| 29. 酒井抱一   | 30. 佐久間象山  | 31. 佐藤信淵  | 32. 佐野政言  |
| 33. 三国通覧図説 | 34. 司馬江漢   | 35. 杉田玄白  | 36. 高橋景保  |
| 37. 高橋至時   | 38. 谷文晁    | 39. 田沼意次  | 40. 田沼意知  |
| 41. 田能村竹田  | 42. 通信使    | 43. 手島堵庵  | 44. 天文方   |
| 45. 遠山景元   | 46. 徳川斉昭   | 47. 中江兆民  | 48. 中津藩   |
| 49. 中村正直   | 50. 西川如見   | 51. 野呂元丈  | 52. 橋本左内  |
| 53. 馬場辰猪   | 54. ハルマ和解  | 55. 広瀬淡窓  | 56. 福沢諭吉  |
| 57. 保科正之   | 58. 本多利明   | 59. 松平定信  | 60. 間部詮房  |
| 61. 円山応挙   | 62. 水野忠邦   | 63. 水戸藩   | 64. 山片蟠桃  |
| 65. 横井小楠   | 66. 蘭学事始   | 67. 渡辺崋山  |           |

#### 問 題 IV

以下の文章〔A〕〔B〕の空欄 (75) (76) から (93) (94) に入る最も適切な語句を語群より選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部 (ア) (ウ) および空欄 (イ) に関連する設問について、指示に従って番号を選び、解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

〔A〕

(75) (76) が樞原宮において統治を開始してから2600年目に当たるとされた年は、その意義が朝野を挙げ喧伝された。(75) (76) が統治を始めたとされる日は、(77) (78) として、明治の初頭より祝日に定められていたが、それは、(79) (80) の時代に編纂事業が着手され、奈良時代に完成をみた歴史書に基づくものであった。こうした建国神話を淵源に、記念すべき年とされた2600年の11月に行われた祝賀行事は、提灯行列や音楽行進など盛大なものとなった。しかし、他方において、このような気運は、上記歴史書についての実証的視点から研究を行うには困難な環境を生み出した。この年の早々、(81) (82) の一連の著作が発禁処分を受けたのは、その象徴的出来事であった。

この年には、政治体制の一元化も図られ、新体制運動の中で政党が次々と解党する。こうした流れに難色を示していた(83) (84) も、8月には解党を決断する。大蔵官僚から政界に転身した政治家を党首に擁し、昭和初頭の政界を牽引した(83) (84) の歴史にも幕が下ろされることになったのである。さらに、11月には、後継首班の選考や内外の重要な政治案件に関し、政界の水面下で影響力を行使してきた(85) (86) が逝去する。それは、彼が大正末から昭和にかけ陰で支えてきた立憲政治の後退を印象づける出来事でもあった。

また、この記念すべき年に開催されることが決定していた国際的イベントは、戦争により中止を余儀なくされたが、第2次世界大戦後、戦後日本の発展を世界に示すものとして改めて開催されることになる。  
(ア)

〔B〕

〔A〕で言及された祝賀行事が行われたその年、日本政府は、日本の進路に大きな影響を及ぼす外交政策上の決断をし、実行に移した。それは、国際社会の中で、それまで別個に捉えられる傾向のあった欧州とアジアの戦争が、連携して認識される契機にもなった。

従前の五相会議においてその実現は目指されていたが、外務省や海軍の中から反対があり、会議は繰り返し行われるものの、結論を出せない状況が続いていた。そうした中、日本にとっては寝耳に水ともいえる、交渉相手国の外交上の転換が発表され、推進派は冷水を浴びせかけられることになった。国際政治の冷厳な現実には翻弄された内閣は崩壊し、冒頭的外交上の決断を促す動きは、ひとまず頓挫することになる。

その後、欧州情勢の変化に伴い、その実現に向けた気運が再び盛り上がることになるが、これを外相として推進し結実させたのは、(イ) であった。(イ) は、ソ連まで加えた連携を構築することにより、日本の対米交渉力を向上させ、それが対米関係改善の道につながると考えていたのである。しかし、欧州情勢の変化に伴いアジアに生まれた力の真空に乗り、9月に日本軍が行った(87) (88) 進駐は、ほぼ同時に行われた冒頭的外交政策上の決断とともに、米国の反発を招くことになる。(イ) の外交構想とは異なり、むしろ日米戦争への道筋を補強することになってしまったのである。

海軍内で、対米協調の観点から冒頭的外交政策上の決断に難色を示していた(89) (90) が、日米戦争の火蓋を切ることになる攻撃作戦の司令長官であったのは、歴史の皮肉といえよう。日本軍は、かかる戦闘だけでなく、(91) (92) 海戦において、英国が世界に誇る戦艦レパルスやプリンス＝オブ＝ウェールズを撃沈し、氣勢を上げた。さらに、(93) (94) も陥落させ、同地防衛のための軍の責任者であったマッカーサーは、オーストラ



リアへの撤退を余儀なくされた。

しかし、こうした日本軍の攻勢は1年も続かず、米軍の反攻が開始される。前線を視察していた (89) (90) の搭乗機が米軍機の要撃を受け撃墜され、彼が戦死したことは、国内に衝撃を与えた。オーストラリアへの撤退に際し“I shall return”という言葉を残したマッカーサーは、 (93) (94) 再上陸を果たし同地を奪還する。これに先立ち、(ウ) サイパン島が陥落したことは、御前会議で決定された防衛ラインである絶対国防圏の一角が崩されたことを意味し、以後、日本は劣勢を挽回することなく敗戦を迎えることになる。

〔設問1〕

下線部（ア）と時期的に最も関連がある事項の番号を選び、その番号を (95) (96) にマークしなさい。

- [01] 国土の均衡ある発展を目指し、「日本列島改造論」の構想が示された。
- [02] 経済企画庁が『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記述するなど、復興から技術革新による経済成長へと、社会的目的が変化した。
- [03] 実質国民総生産や実質個人消費が戦前の水準に回復した。
- [04] 日本人一人あたりの国民所得がアメリカを抜き、日本が世界最大の債権国になった。
- [05] 自家用車の普及などモータリゼーションの進行を見越し、高速道路の建設が推進された。

〔設問2〕

空欄（イ）の人物の説明として適切なものを選び、その番号を (97) (98) にマークしなさい。

- [01] 極東国際軍事裁判に際しA級戦犯として起訴された。
- [02] 基本国策要綱を決定した外相時代、大東亜共栄圏の構想を公にした。
- [03] ポツダム宣言受諾をめぐり御前会議に出席して受諾に反対した。
- [04] 国際連盟の総会で日本を代表し演説した。
- [05] 外相として日ソ中立条約の締結を実現した。

〔設問3〕

戦時下の国民や兵士に対しては、戦局の進展に伴い種々の要請がなされることになる。下線部（ウ）に伴い、ほぼ同時期に新たに行われたものを選び、その番号を (99) (100) にマークしなさい。

- [01] 部落会・町内会・隣保班・市町村常会整備要綱により、末端の住民組織である「隣組」が全国に組織されることになった。
- [02] 国民学校の初等科児童の疎開促進が閣議決定された。
- [03] 高級衣料、装飾品などのぜいたく品の製造、販売を禁止する七・七禁令が出された。
- [04] 軍需品生産に充てるため、一般家庭などに対し金属製品の供出が要請された。
- [05] 戦場で軍人が守るべき行動指針を示し、「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すことなかれ」の一か条が含まれる「戦陣訓」が出された。

[語群]

- |            |           |           |             |
|------------|-----------|-----------|-------------|
| 01. アッツ島   | 02. 天照大神  | 03. 硫黄島   | 04. 石原莞爾    |
| 05. インパール  | 06. 応神天皇  | 07. 岡田啓介  | 08. ガダルカナル島 |
| 09. 桂太郎    | 10. 華北    | 11. 河合栄治郎 | 12. 神嘗祭     |
| 13. 桓武天皇   | 14. 紀元節   | 15. 祈年祭   | 16. 元始祭     |
| 17. 憲政会    | 18. 西園寺公望 | 19. 珊瑚海   | 20. 持統天皇    |
| 21. 社会大衆党  | 22. 淳和天皇  | 23. 神武天皇  | 24. 崇神天皇    |
| 25. 鈴木貫太郎  | 26. ソロモン  | 27. 台湾沖   | 28. 滝川幸辰    |
| 29. 津田左右吉  | 30. 天智天皇  | 31. 天長節   | 32. 天武天皇    |
| 33. 東郷平八郎  | 34. トラック島 | 35. 南部仏印  | 36. 仁徳天皇    |
| 37. 野村吉三郎  | 38. ビルマ   | 39. フィリピン | 40. 北部仏印    |
| 41. 香港     | 42. 牧野伸顕  | 43. 松方正義  | 44. マレー沖    |
| 45. ミッドウェー | 46. 美濃部達吉 | 47. 矢内原忠雄 | 48. 山県有朋    |
| 49. 日本武尊   | 50. 山本五十六 | 51. 米内光政  | 52. 蘭印      |
| 53. 立憲国民党  | 54. 立憲政友会 | 55. 立憲民政党 | 56. 若槻礼次郎   |

問題に以下の4か所の訂正があります。

【1】問題冊子7頁 問題Ⅲ〔設問2〕の文章の9行目

【誤】

ゾーフ



【正】

ゾーフ

【2】問題冊子7頁 問題Ⅲ〔設問2〕の文章の10行目

【誤】

オランダ語の貴重な辞書



【正】

オランダ語の初学者向けの辞書

【3】問題冊子7頁 問題Ⅲ〔設問2〕の文章の10行目

【誤】

ゾーフ部屋



【正】

ゾーフ部屋

【4】問題冊子9頁 問題Ⅳ・文章〔A〕の下から2行目

【誤】

記念すべき年に



【正】

記念すべき年の9月より

以上